

2024年11月21日

通貨ニュース

フィリピン:2年1か月ぶりの安値を更新したPHP相場

PHPは、11月21日の取引でも対ドルで下落してオープンしており、本稿執筆時点では58.98付近で推移している。2022年10月20日以来、実に2年1か月ぶりの安値更新である(図表1)。本稿では、その背景について簡単に要素を記載したい。

まず外部要因であるが、米金利上昇、および市場心理の悪化が新興国通貨全般の重しになっていることに議論の余地はないだろう。この点は、市場参加者の誰もが理解していると推察するので、詳細は省く。

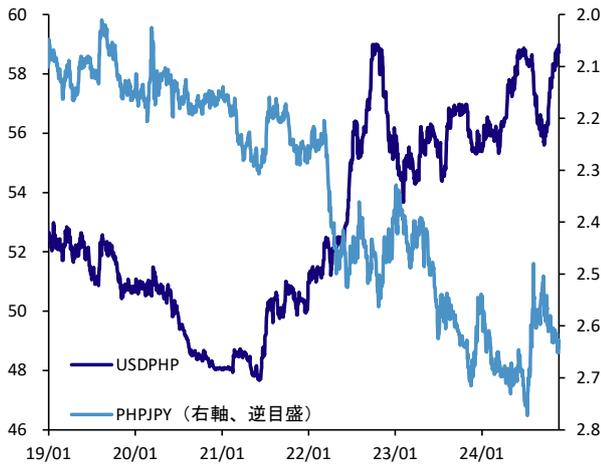
次に内部要因である。主に、①金利の先安観、および②海外投資家によるフィリピン株式の売り越し、の2つがPHP安に寄与している疑いがある。フィリピン中央銀行(BSP)は10月の金融政策会合で▲25bpの利下げを実施した(図表2)。以降、足許にかけても利下げ路線の継続を示唆するBSP高官の情報発信が相次いでおり、金利の先安観が台頭している。例えば11月19日、レモロナBSP総裁は、次回12月会合での利下げ判断は不透明と前置きをしつつも、2025年に関しては計▲100bpの利下げを行う可能性がある、と述べている。確かに物価情勢は明らかに落ち着いているものの、最近のドル高を受け一部の新興国中銀はハト派姿勢を後退させている経緯もある(図表3)。相対的に目立つ中銀のハト派スタンスが、PHPの重しになっていると考えている。

次に、②海外投資家によるフィリピン株式の売り越しである。これは数字を確認すれば明らかであるが、11月に入って以降、売り越しの傾向が強まっている(図表4)。9月までの資金流入の勢いがそれなりに強かっただけに、その反動はPHP相場に悪影響をもたらしている可能性が非常に高い。

今後のPHP相場に関しては、対ドル59の攻防が続こう。過去の値動きを見れば一目瞭然なのだが、59という水準は、市場でも強く意識されていた。2022年9月後半～10月後半にかけての値動きが、最たる例だろう。当然、通貨当局によるPHP買い介入に対する警戒感も浮上してくることは想像に難くはない。一時的に59を突破してPHP安が進むことは十分にあるだろうが、同水準を大きく上回ってPHP安が進む可能性は、現状ではリスクシナリオと位置付けたい。市場心理の悪化が一巡し、資金フローが回帰してくれば、PHP安は一服すると考えている。

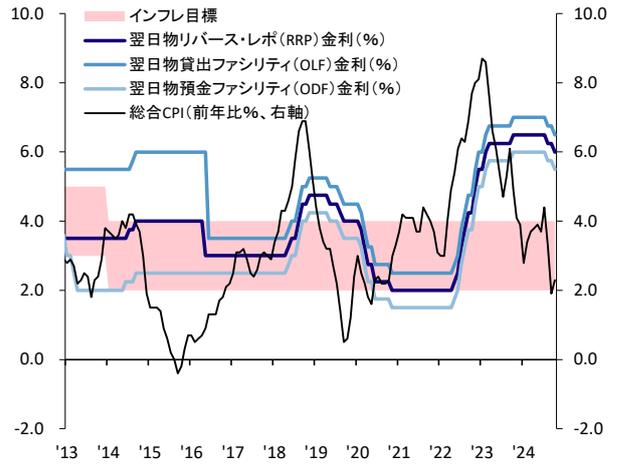
金融市場部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

図表 1: PHP 相場動向



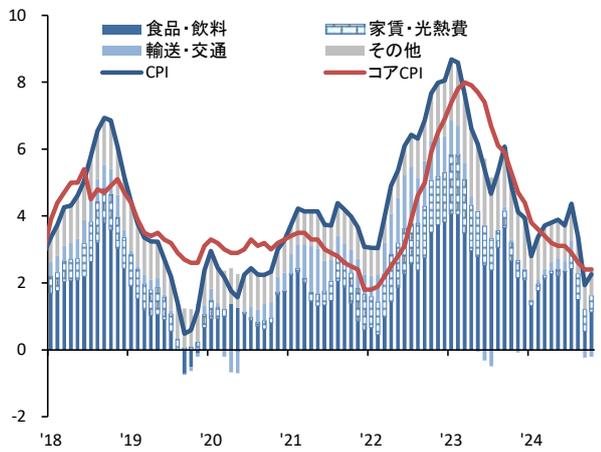
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 政策金利水準とインフレ目標



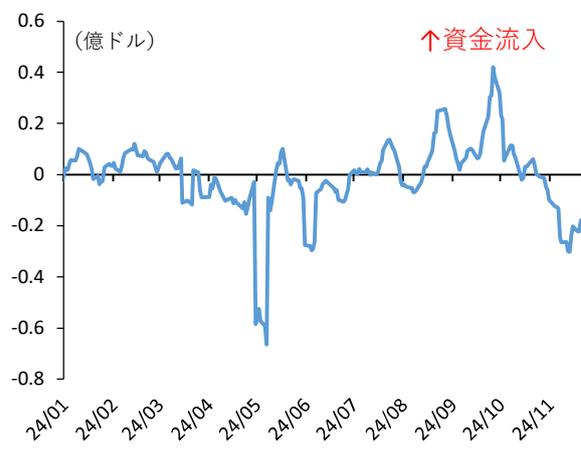
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: 外国人投資家によるフィリピン株式への投資動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行 ※11月20日まで、5営業日移動平均

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。